



美をつくし

— 大阪市立美術館コレクション ショーン展 レポート

【開催場所】

福島県立美術館

2023年3月21日～5月21日

熊本県立美術館

2023年9月16日～11月12日



「美をつくしー大阪市立美術館コレクション」展

当館は2022年9月末より2024年度末頃まで大規模改修工事で休館しているため、館内でコレクションをご紹介する機会がありません。そこでせっかくであればこの間、広く全国の方にご覧いただくべくコレクションの出開帳を行おうと計画されたのが「美をつくしー大阪市立美術館コレクション」展です。紀元前14～11世紀の中国の青銅器から近代の日本画まで、幅広い多様なジャンルの作品を収蔵する当館のコレクションの中から選ばれた優品が、東京・サントリー美術館を皮切りに、福島県立美術館、そして熊本県立美術館の全国3会場を巡回しました。

◆福島県立美術館

この「美をつくし展」3会場のうち、最も多い172件の作品をご紹介くださったのが、福島県立美術館です（会期：2023年3月21日～5月21日）。

“巡回展”というと、まったく同じ内容のものが同じように展示されているとイメージされるかもしれませんが、今回3会場では各館の特徴や展示面積などに応じて構成や作品数が大幅に異なるも



▲福島県立美術館「美をつくし展」チラシ

のとなりました。もし3会場ともご覧になった方がいらっしゃったら、まったく別の印象をお持ちになったことかと思えます。

福島県立美術館は福島駅から車で5分ほどの信夫山の麓の閑静な住宅街に立地する、昭和59年（1984）開館の福島を代表する美術館です。絵画、版画、彫刻、工芸などを収蔵し、なかでも大正時代の洋画家・関根正二やフランス印象派の絵画、20世紀アメリカ具象絵画などのコレクションが広く知られています。近現代美術に強い同館にふ

さわしく、広々とした空間に可動壁も利用して、当館の多様な収蔵品がわかりやすく、のびのびと美しく並べられていました。特に新鮮だったのが、



▲福島県立美術館「美をつくし展」会場風景

入口から入ってすぐの部屋に佐伯祐三などの洋画や上村松園・島成園ら近代日本画を配置し、部屋を進むごとに時代を遡っていく構成です。大画面で色彩豊かな作品で来館者を惹きつけ、江戸の美術工芸、中国書画へと移り、最後に仏教美術における祈りのかたちを紹介する流れは、まるで歩を進めるにつれ当館のコレクションの深奥へと誘うかのようでした。

福島県立美術館での本展のキャッチコピーは「北斎の肉筆画、松園の美人画から中国美術まで財閥コレクターが愛した珠玉のお宝、一挙公開!」。主催には美術館以外に地元のマスコミも入り、テレビや新聞などで広く取り上げていただいたほか、福島駅の新幹線降り口に大きな広告を出すという初めての取り組みも行われ、おかげさまで福島県を中心とする多くの皆様にご覧いただくことができました。リニューアルオープン後は、当館にて大部分の作品を里帰り展示する予定ですので、みなさまどうぞご期待ください。

◆熊本県立美術館

東京、福島へと巡回した「美をつくし展」の最後の巡回先は、九州・熊本県立美術館でした。福島から作品が大阪に戻ってきたのが2023年の5月下旬。その約3か月後に、再び作品は大阪を出発し熊本へと向かい、9月16日（土）から11月12日（日）までを会期として熊本での「美を

つくし展」が開催されました。

福島からの返却時はもちろん、熊本への貸出時にも、一度作品を開梱、状態を確認するという点検作業を行います。コンディションチェックシートと呼ばれる作品1点ごとに画像を貼り込んで作成された用紙に、作品の状態や付属品（箱や極



▲熊本県立美術館「美をつくし展」チラシ

書の紙など）などを書き込み、貸出時と返却時で違いはないかを確認します。またこれは、絵具が剥落しかけていたり、素材が脆弱で危険なものを展示時に取り扱うに際し注意を促す上でも重要なものです。

熊本県立美術館の学芸員さんの同乗のもと、エアサスペンションという振動を極力抑える仕様の美術品専用車に積み込まれた作品は、朝早く関西を出発し、夕方北九州へと到着、北九州市立いのちのたび博物館さんのご協力のもと一晩ご保管いただき、翌日無事、熊本県立美術館の収蔵庫へと運び込まれました。

熊本県立美術館は昭和51年（1976）に建てられた熊本城二の丸公園の敷地内にある美術館で、モダニズム建築を代表する前川國男が最晩年に設計を手がけました。前川建築の最高傑作とも言われ、打ち放しのコンクリートによる格子状の天井やタイルの床が美しく、穏やかで落ち着いた空間が広がります。バリアフリーやユニバーサルデザインという概念がなかった時代の建物ですので、階段が随所にあり、照明も控えめなのですが、公園の緑を映し出す吹き抜けの大きな窓を明り取りとする自然との調和を感じさせる居心地の良さは代えがたいものがあります。

「美をつくし展」出品作は、当館のバラエティに富んだ収蔵品を反映して、素材や大きさもさまざま（4 cmほどの小さな象牙の根付から、縦横2

mを超える日本画まで）ですので、同館が所蔵する展示ケースをフル稼働して展示いただきました。また、独自で作成され来館者に配られた根付のミニ図鑑は、当館の収蔵品をより身近に感じていただく大きな助けとなったことと思います。様々な



▲熊本県立美術館「美をつくし展」開会式の様子

工夫の上で当館所蔵品をご紹介いただきました各館のみなさまに、この場を借りてお礼申し上げます。

◇「美をつくし展」熊本会場 関連イベント◇

熊本会場では、11月3日（金・祝日）に、小・中学生（家族で参加）を対象としたワークショップ「子ども美術館」が開催されました。



今回のテーマは、「美をつくし展」に出品中の葛飾北斎「富嶽三十六景 神奈川冲浪裏」にちなんで、「今日から君もアーティスト★ 多色版画で浮世絵はがきを作ろう！」。大勢のボランティアさんのお手伝いで、カラフルな版画はがきが仕上がりました。親子でそれぞれの出来栄を評価しあう様子も印象的でした。

